

# OCFC NEWS

2003 年 新春号

Vol. 13

## 大川こども & 内科クリニック

### 2003 年に向けて～休日診療のお知らせ～

2002 年もアツという間に過ぎ去りました。2003 年はどんな年となっていくのでしょうか。子供たちが健やかに育ち、景気も回復してくるといいですね。

3 月までは患者さんが多数来院される時期です。医師の説明が不十分と思われたら看護婦にお申し付け下さい。看護婦が補足説明したり、パンフレットをお渡ししたり、あるいは院長が新たに説明を繰り返します。トリアージ(患者さんの重症度に応じた対応)にも留意しなければいけません、更に詳しい説明を希望される方には別に時間を設けたい

と思います。来院される患者さんをお断りすることなく、なるべく待たさず十分なインフォームドコンセントに心がけた医療を提供するつもりです。

年末年始及び3 月までの休日診療の予定ができましたのでお知らせいたします。年末は28 日まで、年始は4 日より通常の診療を行ないます。12 月29 日より1 月3 日までは通常の診療はお休みとなりますが、急患の方は下記の時間帯に診療致します。なお、この期間は電話予約機でのご予約はできませんのでご了承下さい。

月	12 月		1 月				2 月		3 月	
日	29	30	2	3	12	19	2	16	9	23
午前	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
午後	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×

午前は9 時より診療を開始します。午後は3 時までです。12 月31 日に院長は蒲田休日診療所の担当医として朝9:00 より夕方5:00 まで診療致します。

### 院長小児血液学会でシンポジウムの座長

10 月18、19 日に東京で小児血液学会が開催されました。19 日の午前中に行なわれた特発性血小板減少性紫斑病のシンポジウムで院長は産業医大白幡教授と一緒に座長を務めました。シンポジウムでは最適な治療法の確立や予防接種との関係について白熱した議論が交わされました。



### スギの花粉症に備えよう～予防薬使って楽しいお花見を～

花粉症の季節が再びやってきます。2 月からはスギ花粉が飛散するようになりますから1 月中旬からの備えが必要となります。早め早めの予防的治療が貴方にクオリティの高い生活をお約束します。標準的な治療は1 月中旬からの抗アレルギー薬の経口

・点鼻・点眼剤による予防、花粉到来期の抗ヒスタミン薬の経口、ステロイド点鼻・点眼剤の使用となります。抗アレルギー薬を上手に使用すると花粉症の発作を経験しないで過ごせ、ティッシュを持たずにお花見が楽しめます。1 月中からの備えをお忘れなく。

# OCFC INFORMATION

## インフルエンザ対策

インフルエンザに対する一番の対策はインフルエンザワクチンです。OCFCでの予防接種者は11月末には1200名を越えて最終的には延べ2000名を越える予想しています。今年採用したワクチンは保存剤として使用している水銀製剤(チメロサル)の含有量が一番少ないものを用意致しました。一部の製剤に異物が混入しているとの新聞報道がありました。当クリニックのワクチンはロッドが異なっておりますのでご安心下さい。また接種後注射部位が腫れる、24時間以内の発熱、発疹等の副反応が見られたらご連絡下さい。今年も軽微な副反応ばかりですが1.2%程度発生しております。また卵アレルギーの方はお申し出下さい。OCFCではブリックテストを施行して反応のないことを確かめて接種しております。安全を確保するためには必要な方法です。今年も既に10名程度の方に行ないました。1名陽性となったため、その方には接種を見合わせました。主な副反応はほとんど局所の腫脹ですが、39℃の発熱、手の痺れ感等もありました。全て3日以内に改善しております。局所の腫脹はクリニックでスプレーによる治療をおこなっております。

今年のインフルエンザ対策の目玉はインフルエンザAのみに効果があるシンメトリルに加えて、A/B両型に有効な薬剤タミフルにドライシロップが追加され小児にも投与しやすくなったことです。大流行すると薬の不足が懸念されますが、その時は昨年同様脱カプセルして処方する予定です。

## 感染症 だより

### 溶連菌の流行いまだ衰えず

6月より流行が始まり、夏の間も流行していた溶連菌感染症(発疹を伴う場合を猩紅熱といいます。)は9月になっても衰えずどうやら2003年も手ごわそうです。9月には23名、10月には20名そして11月には25名でした。9月までは特定の幼稚園に偏っていた発症者は関連する小学校に及び、11月になって多くの幼稚園・保育園・小学校に拡がっています。この大流行は関東一帯に及んでいるようです。幸いOCFCで治療された方には急性腎炎やリュウマチ熱の発症者はいらっしゃいません。ただ反復してかかる方、軽度の血尿・蛋白尿を認める方がいらっしゃいました。抗生剤の内服はピクシリンやバイシリンで2週間が原則ですが、反復して罹患しASO値が高くなった方には1ヶ月間内服していただきました。すぐ症状が改善する疾患ですが、検査も含めきちんとした治療計画の基で管理することが必要です。登校禁止期間は当日も含め4日ぐらいが適当でしょう。勿論症状により長引くこともあります。

### いよいよ来ました嘔吐下痢症

昨年11月より流行した嘔吐下痢症、今年は9月15名、10月28名でしたが11月になり早くも100名を突破して昨年を増えています。夏から秋にかけての症状とは異なり、発熱・頭痛・腹痛も嘔吐・下痢と一緒に見られるようです。原因は恐らく小型球形ウイルスですがこの仲間のウイルスは10種類を超えていると考えられています。また比較的抗体が残っている期間が短く4年ぐらいたないのが、お父さん・お母さんでも発症したり、同一の子供に繰り返して発病する理由の一つでしょう。このウイルスが原因であれば抗生剤は必要ありません。嘔吐がみられたら3~4時間の禁飲食が早期回復の決め手です。下痢と嘔吐が同時に発生しなければ簡単には脱水にはなりません。でも症状が12時間以上続く場合は必ず小児科を受診して下さい。

### その他の感染症

麻疹は1名、風疹は1名の発症がありました。おたふくかぜ・水痘は毎月数名の発症です。伝染性紅斑は10名前後の発症でした。リンゴ病とも云われていて頬部の発疹が有名ですが、腕・大腿部のレース状の発疹がむしろ決め手となります。OCFCではリンゴ病と診断できれば、一般的に登校(園)禁止の指示はしておりません。登校(園)については医学的な問題以外に社会的な側面もあるようです。

アデノウイルスは夏風邪の代表格ですが、11月に6名の確定者と数名の可能性のある患者さんがいらっしゃいました。流行性角結膜炎で発症される方と咽頭結膜炎で発症される方がいらして、後者では5日ぐらいの高熱が特徴でした。5日間続く高熱と憎悪する咳嗽を主訴とするマイコプラズマ肺炎も昨年よりは少ないですが10名程いらしております。ジスロマックやミノサイクリンの内服で回復しています。同じような症状の患者さんのなかで1名、幼児のクラミジア肺炎を診断しております。

## 一口メモ

### 猫ひっかき病:

最近注目されているペット感染症の一つで、猫に引掻かれることにより発症する発熱を伴うリンパ節炎。B. henselaeによる感染症で猫では無症状である。ペニシリン系やマクロライド系、ニューキノロン系の薬剤が有効。

## 病診連携

紹介入院者は9月3名、10月1名、11月4名と減少しております。東邦大学小児科には乳児の尿路感染症1名、東京慈恵会医科大学小児科に発熱1名、東京医科歯科大学小児科にペット感染症である猫ひっかき病、肺炎+貧血の2名、社保蒲田総合病院小児科にマイコプラズマ肺炎2名、大森日赤病院小児科に感染性胃腸炎1名、都立荏原病院に気管支肺炎1名でした。皆様元気に退院されています。外来の検査依頼は9月12名、10月14名、11月16名の42名でした。成人では甲状腺機能亢進症、胸部異常陰影、強度の頭痛、上室性頻拍症、皮下膿瘍、頭痛検査、貧血検査、大腸内視鏡、小児では睡眠時無呼吸、胸痛、上室性頻拍症、停留睾丸、鼠径ヘルニア、口腔内裂傷、紹介先は東京医科歯科大学小児科、内科、東邦大学小児科、内科、形成外科、昭和大学内科、歯学部口腔外科などです。地域連携としては藤岡皮膚科、池上耳鼻科、岩田耳鼻科、堀耳鼻科、下丸子眼科などに紹介致しました。

## 点滴コーナー

OCFC 内で点滴治療を受けた患者さんは9月26名、10月49名、11月54名でした。肺炎・気管支炎に対する抗生剤投与、嘔吐下痢症による脱水の補液、喘息発作に対するネオフィリンの点滴静注が主流でした。今期の特徴は急性扁桃炎で扁桃にべっとり膿(白苔)がついている患者さんが多かったことです。経口の抗生剤では反応せず、39℃台の発熱が続きます。検査をすると白血球増多、CRPの強陽性(6~10以上)でした。1日2回、2日間点滴を行なうと解熱しております。成人で4名、幼児で1名でした。

## 院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

秋は学会のシーズンでした。9月の日本血液学会・臨床血液学会同時開催総会(横浜)、10月の小児血液学会、幹細胞移植学会に出席し、その間代診の先生にお任せしました。小児血液学会ではシンポジウムの座長(既報)、幹細胞学会(大阪)では米国コロラド大学医学部小児科教授E. Gelfanを招待しての講演を企画しました。10月8日には東京医科歯科大学で医学部看護学科の学生に講義、10日には大学院生のクリニック見学・実習がありました。また9月28日には母校小山台高校の文化祭開催式に招待され、アレルギー疾患についての講演を教育問題との相関を示しながらお話ししました。終了後は多くの質問をうけ多めに盛り上がったようです。

## 診療時間

栄養相談の予約・代表電話で直接予約下さい。  
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00~4:00にお越し下さい。検査希望の方は代表電話にて直接予約して下さい。

曜日	8:30~12:00	14:00~16:00	16:00~18:00
月	一般(小・内)	一般(小・内)	一般(小・内)
火	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
水	代診(小児科)	一般(小・内)	一般(小・内)
木	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
金	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
土	一般(小・内)	13:00~14:00 乳健・予接、14:00~15:00 一般(小・内) 栄養相談 13:00~15:00 30分ずつ(乳幼児、生活習慣病)	

乳健：乳児健診、予接：予防接種、ア：アレルギー疾患 慢：慢性疾患

## 電話予約について

当クリニック(OCFC)では患者さんの待ち時間短縮のため予約制を採用しています。できるだけ電話にて予約を取られるようお願いいたします。空き状況をお聞きの際は、かけなおして予約をお取り下さい。予約希望時間が詰まっている時は希望時間に近い時間帯をご案内いたします。希望時間が取れない方は直接御来院頂ければ順番にて診療いたします。慢性疾患などで十分な説明をご希望の方は電話で直接お尋ね下さい。

### ■ サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	3種混合	21#	水痘	26#
内科一般	12#	健康診断	17#	2種混合	22#	おたふくかぜ	27#
アレルギー/慢性疾患	13#	インフルエンザ	19#	麻疹	23#	日本脳炎	28#
隔離感染症	14#	確認	20#	風疹	24#	その他	29#
予防接種	15#	取消	30#	インフルエンザ	25#		

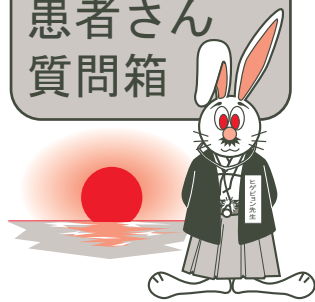
予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。サービスコードの確認を、よろしければ0# 誤ってれば1#で行って下さい。

## 院内設備・機器

院内設備：隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)、オゾン空気清浄・防臭装置(2台)  
検査機器：レントゲン装置、自動解析装置付心電計、自動血球分析器、自動検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、聴力検査機器、心電図・呼吸モニター、チンパノメトリー



## 患者さん 質問箱



3歳の長男の咳について質問させて下さい。長男は10月から咳が出始めましたがもう2ヶ月間も止まりません。多少良くなったかと思うと又ぶり返します。どうしたら良いでしょうか。

(29歳、子供の止まらぬ咳にそろそろ医者を変えようかと思いはじめた母親)



咳に関するご質問は2回目ですね(OCFC NEWS vol.3)。今回は咳がどうしてでなのか、その生理的な意味を説明して強い咳止めを使えない理由をお話しました。つまり咳は異物が気管・肺に侵入することを阻止し、気管支炎・肺炎では病巣部位の掃除に喀痰の排泄を促す意味が必要であるとお話したわけです。今回のご質問はちょっと意味が違いますね。1・2ヶ月続く不快な咳をどうしたら止められるのかという意味だと思います。一部のお母さんはわが子が特別抵抗力の弱い子ではないかと心配する方もいらっしゃいますがそういった免疫不全の状態の方は恐らく10万人に一人ぐらいです。もっともOCFCには東京女子医大や慶応大学病院から紹介されて相談に見える方もいらっしゃいます。開設してからの2年間で成人・小児を含め4人の免疫不全症を診断致しています。

さて長く続く咳の原因は一般的になんなのでしょうか。それには大きく分けて3種類の原因が考えられます。感染症によるもの、アレルギーに起因するもの、鼻水・副鼻腔炎などの鼻疾患によるものです。小児の咳を伴う感染症の多くはウイルス性であり抗生剤の投与は必要ないとされています。しかし咽頭所見がなくても10日以上咳が続く場合は抗生剤が必要なきもあります。3・4歳以降ではマイコプラズマ肺炎などを考えての治療が必要です。このような場合はジスロマック等の抗生剤を内服します。肺炎の後では炎症が治まったあとに感染症後の遷延性の咳として長く残ることもあります。この場合はクラリス等のマクロライド系の抗生剤を少量1ヶ月間使用することもあります。また一部の症例では気道が敏感になっていると予測してアレルギー性の咳に準じた薬剤を使用することもあります。

さてアレルギー性の咳ですが、喘息のように喘鳴が聞かれないで咳だけが続く場合を咳喘息と診断することがあります。喘息と同じようにハウスダストやダニといったアレルゲンがはっきりすることがあります。夜間の典型的な咳喘息のパターンは寝入りばなと明け方の咳です。床にはいつて15分ぐらいで咳が始まり、30分から1時間でなおったあとおよそ数時間後の明け方再び咳が始まることです。この場合は喘息と同じ予防的な治療が必要となります。即ちオノンやキプレスといった抗アレルギー剤の内服とステロイドの吸入です。ステロイドの吸入は学童からの使用となります。

鼻水が続く、副鼻腔炎になりつつあると後鼻漏といって溜まっている分泌物が寝ている間に喉に回って咳がおこることがあります。また幼児に多い口呼吸も喉を乾燥させて咳の原因となります。副鼻腔炎になっていたら耳鼻科に行きましょう。でも初期の状態では良く鼻をかませることが大切です。決してすらないように教えてください。口を閉じて片方の鼻孔を押えて片方づつ鼻をかむようにしましょう。鼻閉がかめないときは赤ちゃんだったらお湯を1~2滴鼻腔にたらしてみして下さい。OCFCにあるハナセン(重曹・生食水)も有効です。その後一生懸命鼻をかみます。特に寝る前に。そして朝起きたらコップ一杯の湯冷ましを飲ませてあげて下さい。ほら咳が止まった。(OCFC 院長)

偏照院駐車場の改良なる。  
~どうぞご利用下さい~

OCFCより50m 蒲田よりに偏照院駐車場があります。いままでばらばらであった駐車スペースを一ヶ所に集め、4台分のスペースで3台の駐車場としました。これまでは狭くていれ難く、乗降にも不便でしたが、拡張することで改善できました。どうぞご利用下さい。駐車はOCFCのマークがあるスペースをお願いします。(下記案内図参照!)

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー(OCFC)会

## OCFC Okawa Children & Family Clinic 大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間:月~金 午前 8:30~12:00 午後 2:00~6:00

土 午前 8:30~12:00 午後 1:00~3:00

(日曜・祝日休診) 駐車場五台あり

予約  
専用

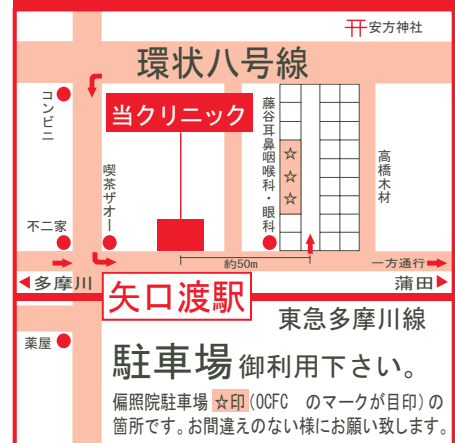
03-3758-0099

代表  
番号

03-3758-0920

E-mail:ocfc@jeans.ocn.ne.jp

## 案内図



東急多摩川線 矢口渡駅前